

## I 研究成果と課題

職員体制を整えていくことで、児童生徒の実態に応じた実践活動ができ、児童生徒に効果的な活動が可能となっていくであろう。

### 1 成果

- (1) 各教室の実態等に応じて、自立活動の指導を行う上で複数の職員で児童生徒の実態を共有し、共通理解を行うことで、児童生徒の実態に合わせた活動に取り組むことができた。また、経験豊富な職員が班にいて、指導等の助言や話し合い活動がスムーズに研究を進めることができた。
- (2) 中高等部では、2学期より時間割り編成の変更を行うことで、自立活動の指導体制を整えることができた。

### 2 課題

- (1) 今後も児童生徒の指導に関することを職員間で意見交換をし、相談し合える環境づくりを意識していくことが必要。
- (2) 今後も職員の専門性の向上が必要のため、専門家活用を継続できるように、予算の確保や人選等の研等が必要。また、小学部には、3年前より専科自活の職員が配置されており、中心となって自立活動に取り組むができている。学校全体で自立活動の取り組みができるような体制を検討していくことが必要。

自活シートを活用して、職員間で課題の確認や児童生徒の実態把握、活動内容の精選（課題の設定）ができ自立活動の充実が可能となっていくであろう。

### 1 成果

- (1) 班別研修や自活のTT会において、児童生徒の実態、中心課題についての意見交換を行い、情報共有し、自立活動の指導を充実させることができた。
- (2) 自立活動シートの活用の他にも、班（小学部2教室さくら教室）の課題に応じて「記録シート」や「自活まとめ表」を作成・活用し、工夫することができた。

### 2 課題

- (1) 自立活動シートを引継ぎ資料としながらも、定期的に自立活動の指導内容を朱書きで書き足して活用できるようにしていくことが課題。
- (2) 自立活動係を中心に、自立活動シートの作成方法、活用方法について学校全体で共有し、定着させていくことが必要。

## VII まとめ

今年度は、研究主題「各学部に応じた自立活動の指導体制づくり」、サブテーマ「自立活動手順シート」等の活用を通して、自立活動を実施する上で、班毎の課題に応じた自立活動の体制づ

くりを探る取り組みを行い、今年度の研究の成果と課題を報告としてまとめる。

班別研修や自活のTT会において、児童生徒の実態、中心課題の意見交換を行い情報共有することができたことは一番の成果である。特に、中高等部では、転入生がいたこともあり、実態把握、自活シートの作成のための取り組みに時間を要しながら、新職員との共通確認を行いながら取り組むことが必要だった。

体制づくりについては、担任制である小学部と教科担任制の中高等部で、課題に大きな差があることは予想できていた。小学部の場合は教室毎にチームとして連携をとることができ、児童の実態、学習の様子、教材教具の共有がしやすい環境にある。中高等部においては、生徒の(自活の)中心課題を見つけて、一人ひとりの自活指導に取り組むことができた。また、2学期から時間割りを変更することで指導しやすい体制の工夫に取り組むことができた。教師間の連携がうまくいっている班が多く、今回の研究をきっかけにして職員体制について継続して教師一人ひとりに意識して取り組んでもらうことができた。今後は、4月の時間割り編成で、自活の指導を見越しての編成ができるよう、中高等部の時間割の調整時の視点として引き継ぐ事が課題として挙げられる。

外部専門家活用の機会を設けて、外部専門家からの助言を受け、児童生徒のニーズに合わせた指導や支援につなげることができた。今後、先生方の研修のニーズを受け、外部専門家をどのように人選し、どのような方法で研修に取り入れていくのか課題である。一人の教師だけでは、自立活動の指導に取り組んでいくことは難しい。そのため、教師間はもちろん、保護者、外部専門家との連携・協力をしながら今後の指導支援について本校の自立活動の体制を整えていく必要がある。

自立活動シートの活用については、作成、活用の仕方を年度初めに、新職員も含めて共通確認をしていく必要がある。今回、さくら教室での「記録シート」の活用方法を他教室でも可能かどうか、取り組み可能な方法を見つけて、毎時間の引継ぎ資料として活用する方法を模索していくことも必要と考える。しかし、「記録シート」への記入の仕方によっては、記録することで「評価のしやすさ」「正確な引継ぎ」ができることを考えると、記録のまとめ方の工夫や改善は、今後も継続して活用していくことが必要。他の班でも活用できないかを検討しながら、学校全体で取り組んでいけたらと考える。

次年度以降も今年度の取り組みを継続していきたい。そのため、今回の研究内容を次年度の職員へ引継ぐことを意識して、児童生徒の実態に合った自主活動の充実に努めなければならない。